

森鷗外「最後の一句」テスト練習問題と過去問まとめ

年	組	番	名前
---	---	---	----

【漢字の問題】

問1 「斬罪」の読み方をひらがなで答えなさい。

問2 「女房」の読み方をひらがなで答えなさい。

問3 「慕う」の読み方をひらがなで答えなさい。

問4 「裕福」の読み方をひらがなで答えなさい。

問5 「乏しい」の読み方をひらがなで答えなさい。

問6 「出帆」の読み方をひらがなで答えなさい。

問7 「訴える」の読み方をひらがなで答えなさい。

問8 「奉行」の読み方をひらがなで答えなさい。



問9 「暁」の読み方をひらがなで答えなさい。

問10 「懷中」の読み方をひらがなで答えなさい。

問11 「願書」の読み方をひらがなで答えなさい。

問12 「情偽」の読み方をひらがなで答えなさい。

問13 「執行」の読み方をひらがなで答えなさい。

問14 「控える」の読み方をひらがなで答えなさい。

問15 「拷問」の読み方をひらがなで答えなさい。

問16 「臆する」の読み方をひらがなで答えなさい。

問17 「陳述」の読み方をひらがなで答えなさい。



問18 「唇」の読み方をひらがなで答えなさい。

問19 「憎悪」の読み方をひらがなで答えなさい。

問20 「赦免」の読み方をひらがなで答えなさい。

【語句の問題】

問1 「高札」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

ア：罪人を閉じこめる牢のこと。

イ：法令や知らせを書いて、人々に見える場所に立てた札のこと。

ウ：奉行所で取り調べを行う場所のこと。

エ：願いごとを書いて差し出す文書のこと。

問2 「入牢」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

ア：牢に入れられること。

イ：船が港を出ること。

ウ：役人に願書を出すこと。

エ：罪を許されること。

問3 「里方」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

ア：奉行所の控え室。

イ：妻の実家。

ウ：船を出す港。

エ：町人を取り調べる場所。



問4 「繰り言」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：同じような不満や悲しみを、何度もくり返して言うこと。
- イ：役所に出す正式な文書のこと。
- ウ：船の荷物を積み替えること。
- エ：罪人を人前にさらすこと。

問5 「願書」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：願いごとを書いて差し出す文書のこと。
- イ：罪を認めるために書く文書のこと。
- ウ：役人が命令を書いた札のこと。
- エ：商売の記録を書いた帳面のこと。

問6 「公事」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：訴訟や裁判のこと。
- イ：船の修理のこと。
- ウ：家族の食事のこと。
- エ：夜明けの見回りのこと。

問7 「情偽」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：人を思いやる気持ち。
- イ：本当かうそかということ。
- ウ：奉行所で働く人のこと。
- エ：船が壊れること。



問8 「御意」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：目上の人の言うこと。また、目上の人に対して「その通りでございます」と答える言葉。
- イ：米の持ち主が出す訴え。
- ウ：夜回りが鳴らす合図。
- エ：子どもが書いた願書。

問9 「たゆたわず」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：少しもためらわず。
- イ：大きな声で泣きながら。
- ウ：人に教えられて。
- エ：何度も言い直して。

問10 「矛先」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：本来は矛の先端部分で、転じて非難や攻撃が向かう対象や方向を意味する言葉。
- イ：船を港にとめる場所。
- ウ：役人が願書を書く机。
- エ：天皇が行う儀式の名前。

問11 「赦免」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：罪や刑罰を許すこと。
- イ：罪人を人前にさらすこと。
- ウ：願書を取り下げること。
- エ：船が難船すること。



問12 「教唆」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：人をそそのかして、ある行動をさせること。
- イ：罪を許して、刑を軽くすること。
- ウ：役人が書類を読み上げること。
- エ：船が港を出発すること。

問13 「献身」の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分を犠牲にして、だれかのために尽くすこと。
- イ：相手を強く憎むこと。
- ウ：自分の利益だけを考えて行動すること。
- エ：物事の本当どうそを調べること。

【登場人物とあらすじの問題】

問1 「最後の一句」の作者を答えなさい。

問2 この物語の舞台として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：平安時代の京都。
- イ：江戸時代の大阪。
- ウ：明治時代の東京。
- エ：昭和時代の横浜。

問3 桂屋太郎兵衛についての説明として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：奉行所で取り調べを行う役人である。
- イ：太郎兵衛の実子ではないが、家の跡取りである。
- ウ：大阪の船乗り業で、難船後の残り荷を売った金を受け取ったことで死罪になりかける。
- エ：いちに願書を書くよう命じた人物である。



問4 いちについての説明として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：太郎兵衛の長女で、父を助けるために願書を書く。
- イ：太郎兵衛の妻の母で、死罪の知らせを持ってくる。
- ウ：西町奉行で、いちを取り調べる。
- エ：船頭で、事件後に逃走する。

問5 佐佐又四郎成意についての説明として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：太郎兵衛の船頭である。
- イ：太郎兵衛の女房の父である。
- ウ：西町奉行で、いちの願書と最後の一句に衝撃を受ける人物である。
- エ：長太郎を奉行所へ連れていく人物である。

問6 太郎兵衛が死罪になりかけた理由として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：難船後の残った米を売った金を受け取ったから。
- イ：奉行所に願書を出したから。
- ウ：長太郎を家の跡取りにしたから。
- エ：船頭の新七を助けようとしたから。

問7 「良心の鏡が曇って」とは、太郎兵衛のどのような状態を表しているか。もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分の罪を深く反省して、心が明るくなった状態。
- イ：正しい判断をする心が一時的に弱くなり、悪いと分かりながら金を受け取ってしまった状態。
- ウ：何も知らずに、だまされて金を受け取った状態。
- エ：人のために自分を犠牲にしようとした状態。



問8 いちは、太郎兵衛の死罪の知らせをどこで聞いていたか。もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：奉行所の門の前。
- イ：白州の庭。
- ウ：船の上。
- エ：襖の陰。

問9 物語の流れとして、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：いちの願書 → 太郎兵衛の事件 → 最後の一句 → 奉行所での取り調べ
- イ：太郎兵衛の事件 → いちの願書 → 奉行所での取り調べ → 最後の一句
- ウ：奉行所での取り調べ → 太郎兵衛の事件 → いちの願書 → 最後の一句
- エ：最後の一句 → いちの願書 → 太郎兵衛の事件 → 奉行所での取り調べ

【いちの願書と奉行所でのやり取りの問題】

問1 いちが最初に書いた願書の内容として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：父の罪はすべて新七にあるので、新七だけを罰してほしいという内容。
- イ：父の命を助ける代わりに、自分たち子どもを処罰してほしいという内容。
- ウ：太郎兵衛の女房を代わりに処罰してほしいという内容。
- エ：太郎兵衛をすぐに大阪から追放してほしいという内容。

問2 いちが最初の願書で、長太郎だけは助けてほしいと考えた理由として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：長太郎が病気だったから。
- イ：長太郎が奉行所への道を知っていたから。
- ウ：長太郎は太郎兵衛の実子ではなく、家の跡取りと考えられていたから。
- エ：長太郎だけが父を助けたいと思っていなかったから。



問3 いちが奉行所へ最初に向かったとき、一緒に行った人物の組み合わせとして正しいものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：まつと長太郎。
- イ：とくと初五郎。
- ウ：母とおばあ様。
- エ：新七と長太郎。

問4 奉行所の門番に帰れと言われたとき、いちはどうしたか。もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：すぐに泣きながら家へ帰った。
- イ：まつだけを奉行所に残して帰った。
- ウ：門の前にしゃがみ込み、願いを聞いてもらうまで帰らない態度を示した。
- エ：門番に願書を破らせた。

問5 佐佐が、いちの願書について疑ったこととして、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：願書は太郎兵衛が牢の中で書いたのではないかということ。
- イ：いちが本当に自分で考えて書いたのではなく、大人に書かされたのではないかということ。
- ウ：願書は新七が逃げるために書いたものではないかということ。
- エ：いちが父を助けたいと思っていないのではないかということ。

問6 白州に責め道具を並べた目的として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：いちたちをおどして、本当のことを言わせるため。
- イ：太郎兵衛をすぐに処刑するため。
- ウ：長太郎を跡取りにするため。
- エ：見物人を集めるため。



問7 取り調べでのいちの態度として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：おびえて何も答えられなかった。
- イ：まつにすべて答えさせた。
- ウ：少しもおびえず、一部始終をはっきり答えた。
- エ：願書を書いたことを否定した。

問8 「みんな死にますのに、わたしが一人生きていたくはありません」と答えた人物を一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：まつ
- イ：長太郎
- ウ：とく
- エ：初五郎

問9 初五郎は「死ぬるのか」と問われたとき、どのような反応をしたか。もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：活発にかぶりを振った。
- イ：すぐに願書を書いた。
- ウ：いちの後ろに隠れて泣いた。
- エ：父の顔を見たいと叫んだ。

問10 いちの態度と、まつ・とく・初五郎の反応を比べた説明として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：いち冷静で強い覚悟を見せ、弟妹たちは年齢相応の恐れや迷いを見せている。
- イ：いちだけが泣き出し、弟妹たちは全員冷静だった。
- ウ：いち願書を書いたことを否定し、弟妹たちが事実を説明した。
- エ：いちも弟妹たちも、奉行所へ行くことをすぐにやめた。



【最後の一句・主題の問題】

問1 作品の題名にもなっている「最後の一句」を、教科書の表記に合わせて答えなさい。

問2 「お上のことにはまちがいがございますまいから」の表面上の意味として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

ア：お上の判断にはまちがいがないでしょう、という従順な言葉。

イ：お上の判断はすべてまちがっている、という直接的な批判。

ウ：父は罪を犯していない、という無罪の主張。

エ：自分は死にたくない、という恐怖の表現。

問3 「お上のことにはまちがいがございますまいから」が実際に持っている働きとして、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

ア：役人に感謝し、父の処刑を急がせる働き。

イ：自分の命を惜しみ、処罰を逃れようとする働き。

ウ：子どもを殺す判断も本当に正しいのかと、お上の判断を鋭く問い返す働き。

エ：長太郎だけを助けてほしいと頼む働き。

問4 いちの最後の一句を聞いた佐佐の反応として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

ア：何も感じず、すぐに笑い出した。

イ：いちの言葉に驚愕し、その鋭さに動揺した。

ウ：いちをすぐに孝行娘としてほめたたえた。

エ：いちにその場で父と会わせた。



問5 「献身のうちに潜む反抗」の説明として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：父を助けるための献身が、結果的にお上の判断の正しさを問い返す反抗にもなっていること。
- イ：いちが父を憎んで、奉行所に訴えようとしたこと。
- ウ：子どもたちが役人に暴力で抵抗したこと。
- エ：太郎兵衛が新七の罪を責めたこと。

問6 太郎兵衛の刑は、最終的にどうなったか。もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：すぐに斬罪に処せられた。
- イ：新七の代わりに重い刑を受けた。
- ウ：刑の執行が日延べされ、のちに死罪は赦免された。
- エ：いちたち子どもが代わりに処刑された。

問7 「最後の一句」の主題として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：商売で失敗した人は、必ず厳しく罰せられるべきだということ。
- イ：父を思ういちの献身と、その中に潜む権力への静かな反抗を通して、人間の精神の強さを描いていること。
- ウ：子どもは大人の言うことを聞かず、自由に行動すべきだということ。
- エ：役人はいつも正しく、どんな判断にもまちがいが無いということ。

問8 いちの「反抗」が「静かな反抗」といえる理由として、もっとも適切なものを一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：いちが役人に大声で怒鳴ったから。
- イ：いちが責め道具を使って役人をおどしたから。
- ウ：いちが乱暴に逆らっていないが、最後の一句によってお上の判断の正しさを問い返しているから。
- エ：いちが奉行所へ行かず、家で黙っていたから。



【記述問題】

問1 太郎兵衛が死罪になりかけた理由を、本文の内容に沿って簡潔に説明しなさい。

問2 いちが最初の願書で長太郎を助けようとした理由を説明しなさい。

問3 奉行所でのいちの態度には、どのような特徴があるか説明しなさい。

問4 「お上のことにはまちがいがございますまいから」という言葉が、なぜ役人たちを動揺させたのか説明しなさい。

問5 「献身のうちに潜む反抗」とは、この作品ではどのようなことを表しているか説明しなさい。

問6 この作品で、いちの最後の一句が題名になっている理由を説明しなさい。



森鷗外「最後の一句」テスト練習問題と過去問まとめ (解答)

【漢字の問題】

問1 ざんざい

【解説】「斬罪」は、首を切る刑罰のことだよ。「斬」は、この単元の新出漢字の一つだね。

問2 にょうぼう

【解説】本文では、太郎兵衛の妻を「女房」と表しているよ。「房」は新出漢字だね。

問3 したう

【解説】「慕う」は、相手を大切に思い、なつかしく思うことだよ。子どもたちがおばあ様を慕う場面に関係するね。

問4 ゆうふく

【解説】「裕福」は、暮らしにゆとりがあることだよ。平野町の里方の様子を表す言葉として確認しておこう。

問5 とぼしい

【解説】「乏しい」は、少ないこと、不足していることだよ。

問6 しゅっぱん

【解説】「出帆」は、船が港を出発することだよ。「帆」は新出漢字だね。

問7 うったえる

【解説】本文では、米主が大阪へ出て訴えることが、太郎兵衛の事件につながっているよ。



問8 ぶぎょう

【解説】「奉行」は、江戸時代に行政や裁判などを担当した役人のことだよ。

問9 あかつき

【解説】「暁」は、夜明けごろのことだよ。本文では「霜の暁」という表現に係するね。

問10 かいちゅう

【解説】「懷中」は、ふところの中という意味だよ。いちが願書を懷中から出す場面に係するね。

問11 がんしょ

【解説】「願書」は、願いごとを書いて差し出す文書のことだよ。いちが父を助けるために書いたものだね。

問12 じょうぎ

【解説】「情偽」は、本当かうそかということだよ。願書の内容にいつわりがないかを確かめる場面に係するね。

問13 しっこう

【解説】「執行」は、決められたことを実際に行うことだよ。本文では刑の執行に係しているね。

問14 ひかえる

【解説】「控える」は、そばに待っていることや、準備して待つことを表すよ。

問15 ごうもん

【解説】「拷問」は、苦痛を与えて白状させようとするんだよ。本文では責め道具に係する語句だね。



問16 おくする

【解説】「臆する」は、おじけづくこと、怖がってためらうことだよ。いちは少しも臆する様子を見せなかったんだ。

問17 ちんじゅつ

【解説】「陳述」は、自分の知っていることや考えを述べることだよ。取り調べの場面に関係するね。

問18 くちびる

【解説】本文では、とくが恐ろしさで唇の血色を失う場面に関係しているよ。

問19 ぞうお

【解説】「憎悪」は、強く憎む気持ちのことだよ。

問20 しゃめん

【解説】「赦免」は、罪や刑罰を許すことだよ。太郎兵衛の死罪が許される結末に関係するね。

【語句の問題】

問1 イ

【解説】「高札」は、法令や知らせを書いて、人々に見える場所に立てた札のことだよ。太郎兵衛の処刑についても高札に書かれていたんだ。

問2 ア

【解説】「入牢」は、牢に入れられることだよ。太郎兵衛は事件のあと入牢したんだ。



問3 イ

【解説】「里方」は、妻の実家のことだよ。本文では、太郎兵衛の女房の実家を指しているね。

問4 ア

【解説】「繰り言」は、同じような不満や悲しみを、何度もくり返して言うことだよ。

問5 ア

【解説】いちは、父を助けてもらうために願書を書いたよ。願書とは、願いごとを書いて差し出す文書のことだね。

問6 ア

【解説】「公事」は、訴訟や裁判のことだよ。太郎兵衛の事件に関係しているね。

問7 イ

【解説】「情偽」は、本当かうそかということだよ。佐佐は、願書の内容にいつわりがないかを確認めようとするんだ。

問8 ア

【解説】「御意」は、目上の人のことや、目上の人に対して「その通りでございます」と答える言葉だよ。

問9 ア

【解説】いちは責め道具を指さされても、少しもためらわずに、自分の申し立てに間違いはないと言い切ったよ。



問10 ア

【解説】「矛先」は、本来は武器の先端を表す言葉だけど、転じて非難や攻撃が向かう対象や方向を表すよ。

問11 ア

【解説】「赦免」は、罪や刑罰を許すことだよ。太郎兵衛は、のちに死罪を赦免されるんだ。

問12 ア

【解説】「教唆」は、人をそそのかして、ある行動をさせることだよ。本文では、いちの願書がだれかに教唆されたものではないかと疑われる場面に関係するね。

問13 ア

【解説】「献身」は、自分を犠牲にして、だれかのために尽くすことだよ。いちが父を助けるために自分の命を差し出そうとしたことは、献身といえるね。

【登場人物とあらすじの問題】

問1 森鷗外

【解説】「最後の一句」の作者は森鷗外だよ。

問2 イ

【解説】物語は、江戸時代の大阪を舞台にしているよ。元文三年という年号も、江戸時代を示す手がかりになるね。

問3 ウ

【解説】太郎兵衛は大阪の船乗り業で、難船後の残り荷を売った金を受け取ったことが事件の原因となったよ。



問4 ア

【解説】 いちは太郎兵衛の長女で、父を助けるために、自分の考えて願書を書いたよ。

問5 ウ

【解説】 佐佐又四郎成意は西町奉行だよ。いちの言葉に強い衝撃を受ける、権力側の重要人物なんだ。

問6 ア

【解説】 太郎兵衛は、難船後の残り荷を売った金を受け取ったことで、米主に訴えられたんだ。

問7 イ

【解説】 太郎兵衛は、もともと正直に営業していたけれど、大きな損失のあとに現金を見て、正しい判断が弱くなってしまったんだ。

問8 エ

【解説】 いちは、平野町のおばあ様が知らせに来た話を、襖の陰で聞いていたよ。

問9 イ

【解説】 大きな流れは、太郎兵衛の事件、いちの願書、奉行所での取り調べ、最後の一句の順に押さえよう。

【いちの願書と奉行所でのやり取りの問題】

問1 イ

【解説】 本文の「父の命を助けて、その代わりに自分と妹のまつ、とく、弟の初五郎をおしおきにしていただきたい」という部分から分かるね。



問2 ウ

【解説】長太郎は実子ではなく、太郎兵衛が家の跡を取らせようとしていた人物だったため、いち是最初、助けようとしたんだ。

問3 ア

【解説】いちは、まつと長太郎を連れて奉行所へ向かったよ。

問4 ウ

【解説】いちは帰れと言われても帰らず、門の前にしゃがみ込んだよ。ここから、いちの強い覚悟が分かるね。

問5 イ

【解説】願書はふつつかな仮名文字で書かれていたけれど、内容がよく整っていたため、佐佐は大人が書かせたのではないかと疑ったんだ。

問6 ア

【解説】責め道具は、子どもたちをおどして、願書にうそや大人の関与がないか確かめるために並べられたんだ。

問7 ウ

【解説】いちは少しも臆する様子を見せず、願書を書いた経緯をはっきり答えたよ。

問8 イ

【解説】長太郎は、実子ではない自分も兄弟と一緒に死にたいと考えたんだ。

問9 ア

【解説】六歳の初五郎は、「死ぬるのか」と問われて、首を横に振ったよ。子どもらしい自然な反応だね。



問10 ア

【解説】 いちの冷静さは、弟妹たちの子どもらしい反応と対比されることで、より強く印象づけられているよ。

【最後の一句・主題の問題】

問1 お上のことにはまちがいはございますまいから

【解説】 教科書では、「こと」「まちがい」がひらがなで表記されているよ。表記まで正確に覚えておこう。

問2 ア

【解説】 表面上は、お上の判断を信じる従順な言葉に見えるよ。

問3 ウ

【解説】 この言葉は、表面上は従順だよ。けれど、実際には「子どもを殺す判断も本当に正しいのですか」と、お上の判断を鋭く問い返す働きを持っているんだ。

問4 イ

【解説】 佐佐は、いちの最後の一句に不意打ちを受けたような驚きを感じたよ。いちの言葉は、役人たちの胸を刺すものだったんだ。

問5 ア

【解説】 いちの行動は父への献身であると同時に、権力の判断を問い返す静かな反抗にもなっているよ。

問6 ウ

【解説】 太郎兵衛の刑は日延べとなり、のちに死罪は赦免されたよ。



問7 イ

【解説】この作品では、父を思ういちの献身と、その言葉が権力を揺さぶる静かな反抗になっていることが描かれているよ。

問8 ウ

【解説】いち は直接的に反抗しているわけではないよ。けれど、最後の一句によって、役人たちの判断の重さを突きつけているんだ。

【記述問題】

問1 難船後に残った米を新七が売り、その金を太郎兵衛が受け取ったことが米主に知られ、訴えられたから。

【解説】ポイントは、「難船後の残り米」「売った金」「太郎兵衛が受け取った」の3つを入れることだよ。

問2 長太郎は太郎兵衛の実子ではなく、太郎兵衛が家の跡を取らせようとしていた人物だったから。

【解説】いち は、父を助きたい気持ちだけでなく、家の跡取りのことまで考えていたんだ。

問3 責め道具を見せられても少しもおびえず、自分で願書を書いたことや行動の経緯を、落ち着いてはっきり答えている。

【解説】まつやとく、初五郎の子どもらしい反応と比べると、いちの冷静さと強い覚悟が目立つよ。

問4 表面上はお上を信じる従順な言葉だが、実際には「子どもを殺す判断も本当に正しいのか」と、お上の判断の正しさを問い返す言葉になっていたから。

【解説】この言葉は、直接逆らう言葉ではないのに、役人たちの判断の重さを突きつける力を持っているんだ。



問5 いちが父を助けるために自分の命を差し出そうとする献身が、結果的に、お上の判断の正しさを問い返す反抗にもなっているということ。

【解説】 いちは大声で逆らったわけではないけれど、その言葉と覚悟によって、権力を静かに揺さぶったんだ。

問6 「お上のことにはまちがいがありますまいから」という言葉が、いちの献身と権力への静かな反抗を最もよく表し、役人たちを動揺させる重要な言葉だから。

【解説】 題名の「最後の一句」は、単なる最後の言葉ではなく、作品の主題につながる中心的な言葉なんだ。

